

Ⅲ 現 職 教 育

1, 研究主題

自分の思いや考えをもち、豊かに表現できる子供を育てる
～子供同士が関わり合い学び合う国語科・算数科の授業づくり～

2, 研究主題設定の理由

子供たちが、情報化・グローバル化等変化の激しいこれからの社会を生きるためには、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の知・徳・体をバランスよく育てることが大切である。

文部科学省は、新学習指導要領の改訂にあたり、情報化やグローバル化によって社会が人間の予測を超えて変化する中で、「新しい時代に必要とする資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し」をするため、と説明している。このような状況においてなお、確かな学力、豊かな心、健やかな身体の調和を重視することは、教育の基礎・基本になるといえる。

本校の子供たちは、明るく人懐こい子が多く、言われたことやしなければならないことに対しては、素直で真面目に取り組む様子が見られる。挨拶や読書活動等学校全体で継続的に取り組んでいることについては、一定の成果が見られるようになってきている。読書活動については、読書タイムになると一人一冊本をもち、読書に没頭する姿が定着してきた。テレビやゲーム、インターネット、携帯電話等の様々な情報メディアに囲まれて生活している子供たちに、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力をつけるとともに、語彙力向上を図るためにも、継続して読書活動を推進していきたいと考えている。

反面、家庭環境からの影響により、生活習慣が確立されていなかったり、家庭学習に力を注ぎにくかったりする子供もいる。また、授業には、真面目に取り組むものの、自ら課題を見つけたり、根拠を持って発言したり、自分の考えを書いたりすることに課題が見られる。このような子供たちに、自信を持って自分の考えや意見が書けたり、述べられたり、論理的に物事を考えたりする力をつけていきたい。

主体的・対話的な学びができるような授業作りをするため、教師が知識を一方向的に教えていくのではなく、子供たちが関わり合いながら学びが深まる授業を追究していかなければならないと感じている。

本校は、長年国語科を現職教育の中心に据えて研究を進めてきた。

国語科においては、ワークシートを工夫し効果的な学習形態を討議し実践してきた。学年や学級の子供たちの実態に合わせ、つけたい力を明確にして作成したワークシート

に取り組ませたことは、問題解決に向けての一人学習の深まりに繋がった。また、個人学習・ペア学習・グループ学習・一斉学習と、授業形態に変化をつけることで、子供たちが関わり合いながら学び合う授業を目指した。お互いの考えを理解するために、話し方や聞き方を工夫し、個の考えの広がりや深まりを実感させることができた。これらのことを引き続き取り組んでいき、今後は相手にきちんと自分の思いや考えが伝わる子供達の姿を目指していく。そのために、子供たちの語彙力を充実させると共に、学校全体で系統的に指導していく手立てを考え、実践していきたい。

算数科においては、数学的活動を通して考えを書き学び合う学習活動を研究の重点としてきた。学習課題を明確にし、課題について考えを書く時間を確保したことにより、個の考えの変容に気づかせることができた。そして、自分の考えに自信を持って取り組む子供の姿が見え始めた。どの子にも生き生きと楽しく数学的活動を通して学ばせるため、さらなる教材の工夫や緻密な単元構成の研究が今後の課題である。子供たちの実態をしっかりと見つめ、習熟度に応じた指導を計画的・継続的に指導していくことはもちろんのこと、コンセプトを明確にした授業改善が必要である。

このような現状を踏まえ、『国語科』『算数科』を現職教育の柱として研究を進め、子供たちが主体的・対話的に学習する授業の在り方の研究を進めるとともに、すべての子供たちに基礎学力の充実を図る取組を行っていきたい。

3. 研究の進め方

① 子供が主体となる授業

「生きる力」を育むためには、教師が知識を一方向的に教えていく授業ではなく、子供たちが自ら主体的に学び合うことが大切である。学級集団の中で、子供たちが様々な考えを出し合い、意見を交流できるような授業を展開していきたい。そのような授業を通して、自分の思いや考えを豊かに表現する力を育てるとともに、友達の意見や考えに耳を傾けることで、互いを尊重しながら学習するようにしていきたい。

② 研究授業

一人一研究授業を行う。全担任が、国語部会または算数部会に所属し、授業者がどのような授業づくりをめざしていきたいのか、子供にどのような力をつけたいのかを中心に協議し、授業づくりを行う。授業後には、協議会をもつとともに、自身の授業について考察をし、授業改善につなげていくようにする。

③ 協議会を通して

協議会では、子供が何をどのように学んだかを協議するとともに、子供の育ちを見取る機会にもしたい。また、授業者は、自身の指導について、子供にどのような力をつけることができたのかを振り返り、指導のあり方を見直していく機会とする。「授業力向上が子供の学力向上につながっていく」ということを全担任が共通理解する必要がある。

4, 授業づくり

国語科

(1) 研究の内容

豊かな表現力を育てるための効果的な学習活動

(2) 研究の重点

- ・自分の思いや考えを書く学習活動
- ・対話を中心とした伝え合う学習活動

(3) 具体的な実践の取り組み

- ・子供の実態に即し、問題解決に向けての一人学習ができるようなワークシートを作成する。
- ・話し合いを活発にするための効果的な学習形態を取り入れる。
- ・単元の見通しを持って学習することを意識づける。
- ・国語辞典・漢字辞典を活用し、語彙力を高め、言語感覚を養う。

算数科

(1) 研究の内容

数学的活動を通して、自分の考えを書くとともに学び合う学習活動

(2) 研究の重点

- ・課題について考えを書く活動
- ・知識をもとに発展的・応用的に考える活動
- ・考えたことを表現したり、説明したりする活動

(3) 具体的な実践の取り組み

- ・問題場面から課題設定し、既習の内容をもとに追究を進め解決を図らせる。
- ・単元の終末等に数や図形の適用範囲を広げたり、日常生活の場面に活用して考えさせたりする。
- ・数学的活動を充実し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。
 - 作業的・体験的な活動など身体を使った活動
 - 具体物を用いた活動
 - 課題について考える活動
 - 知識をもとに発展的・応用的に考える活動
 - 考えたことを表現したり説明したりする活動
- ・「個人思考→ペア活動・グループ活動→全体」の授業展開をする。
- ・I C Tを使って子供たちの考えを伝える授業づくりを進める。

5, 研究実践のまとめ

全学級の研究実践を振り返り、成果や課題を考察し「実践記録」にまとめるとともに、今後の指導に生かす。